千葉市公園施設長寿命化計画

【遊具等の公園施設編】

令和6年10月

千葉県 千葉市

1 都市公園等整備状況

(令和6年3月31日時点)

管理対象都市公園等の数	管理対象都市公園等の面積	一人当たり都市公園等面積
1,406 箇所	981ha	9.99 m ² /人

2 計画期間

令和6年度(2024年度) ~ 令和15年度(2033年度)(10箇年)

3 計画対象公園

① 種別別箇所数

街区公園	近隣公園	広場公園	歴史公園	都市緑地	その他	計
906	49	2	2	21	44	1,024

② 選定理由

計画対象は、「都市公園法第2条に基づく都市公園(公園又は緑地)」のほか、これらと同様に本市が独自で管理している公園で、遊具や休憩所、防球フェンス、テニスコート等を有する面積2ha未満の公園を中心とした。

4 計画対象公園施設

① 施設種類別対象施設数

園路広場	修景	休養	遊戯	運動	教養	便益	管理	その他	合計
167	0	477	4,206	134	0	19	368	0	5,371

② これまでの維持管理状況

- ・市職員による定期的な点検(3回/年)とともに、日常点検を随時実施してきた。
- ・施設が劣化した場合には、必要に応じて使用禁止措置を行い、劣化状況に応じた対応を実施してきた(塗装、部品交換といった補修対応や長寿命化計画に基づく施設改築)。

③ 選定理由

設置から30年以上経過した公園施設が約半数を超えており、施設の老朽化が顕在化してきた状況において、長寿命化対策により機能保全を図りながら、ライフサイクルコストの削減を実現するため、遊具や休憩所、防球フェンス、テニスコート等を有する公園を対象とした。

5 健全度を把握するための健全度調査結果の概要

対象施設を予防保全型管理と事後保全型管理に予め区分した上で、予防保全型管理に区分した施設について実施した健全度調査の結果を下表に示す。

遊具については、健全度判定Aが326基(7.8%)、健全度判定Bが3,333基(79.2%)、健全度判定Cが484基(11.5%)、健全度判定Dが63基(1.5%)となり、早期の対応が必要となる健全度判定C・Dの合計は全体の約1割を占めた。

休憩所については、健全度判定Aが46基(9.7%)、健全度判定Bが237基(49.8%)、健全度判定Cが167基(35.1%)、健全度判定Dが26基(5.5%)となり、早期の対応が必要となる健全度判定C・Dの合計は全体の約4割を占めた。

防球フェンス等については、健全度判定Aが5基(6.5%)、健全度判定Bが31基(40.3%)、健全度判定Cが38基(49.3%)、健全度判定Dが3基(3.9%)となり、早期の対応が必要となる健全度判定C・Dの合計は全体の約5割を占めた。

(単位：基数等)

施設と数量		健全度判定			
		A	B	C	D
遊具	4,206	326	3,333	484	63
休憩所	476	46	237	167	26
防球フェンス等	77	5	31	38	3

なお、テニスコート等の事後保全型に分類した施設についても、定期点検から施設の状態を把握した。

6 日常的な維持管理に関する基本的方針

- ・市職員による定期的な点検（3回／年）とともに、日常点検を引き続き実施する。使用見込期間を経過している施設では、特に入念に点検する。
- ・施設の劣化が確認され、緊急的な補修が必要な場合には、使用禁止措置を行うとともに、適宜補修を実施する。構成部材については、定期的に塗装や部品交換を実施する。

7 公園施設の長寿命化のための基本方針

（1）予防保全型管理施設

- ・予防保全型管理における使用見込み期間は、国土交通省の指針で示される期間とした。
- ・長寿命化対策は健全度に応じたタイミングで実施する。健全度判定Dの施設では更新を中心とし、健全度判定Cの施設では、補修または更新を中心に行う。健全度判定AやBの施設では、補修を中心とする。
- ・主たる予防保全型管理施設となる遊具、休憩所、防球フェンス・バックネットにおける対応は以下のとおり。

ア 遊具

人気のあるブランコ、すべり台、砂場等は同じ種類の遊具に更新し、それ以外の遊具は、安全領域の確保と多目的利用できる広場の確保を図る観点とともに維持管理費の削減の観点から、以下の考え方を基本に更新・撤去を検討し、効率化を図っていく。

- ・複合遊具については、小規模な公園では単体遊具への交換を検討する。
- ・スプリング遊具については、ムービング遊具への交換を進める。
- ・木製遊具については、劣化の進行が早いため、鋼製遊具への交換を検討する。

※ 利用者の少ない公園においては、地域の声を聴きつつ、基本的には遊具の更新は行わないものとする。

イ 休憩所

更新時には、既存施設と同規模または小規模化を検討する。

なお、更新時には、バリアフリー基準に適合したものとする。

ウ 防球フェンス等

更新時には、既存施設と同規模施設へ更新する。

（2）事後保全型管理施設

維持保全（清掃・保守・修繕）で公園施設の機能の保全と安全性を維持しつつ、日常点検で施設の著しい劣化や損傷を把握した場合には、施設の更新を行う。

- ・主たる事後保全型管理施設となるテニスコートにおける対応は以下のとおり。

ア テニスコート

コート面については、環境面に配慮しながら、既存施設と同規模施設へ更新する。

付帯設備についても、同規模施設へ更新する。

8 計画全体の長寿命化対策の実施効果

今回長寿命化計画を策定した公園における 10 年間でのライフサイクルコスト縮減額は 60,030 千円（単年度あたり 6,003 千円）である。

9 計画の見直し予定

①計画の見直し予定年度：2032 年度頃

②見直し時期、見直しの考え方等

- ・次回以降の健全度調査、定期点検の結果が、長寿命化計画で定めた内容と著しく乖離が生じた場合等では、長寿命化計画の見直しを行う。